

## 5 第4学年の取り組み

### (1) 算数チャレンジに関する取り組み

時 期	内 容
1学期初め頃	・算数チャレンジの目的と方法を伝える。 ・宿題として算数チャレンジに取り組みさせる。
1学期の中頃	・算数チャレンジで教科書に書き込みをしている児童を紹介する。
2学期初め頃	・算数チャレンジの目的と方法を再確認する。
2学期の中頃	・算数チャレンジを前提とした授業展開を図る。 ・自主学习ノートに算数チャレンジを行う課題に取り組みさせる。 ・自主学习ノートを紹介し、良い点を価値付ける。 ・学級通信等で自主学习ノートを載せ、保護者にも算数チャレンジについての共通理解を図る。

### (2) 算数チャレンジ・数学的な表現活動の工夫に取り組んだ成果 (◎) と今後の課題 (●)

- ◎児童が本時の学習内容に対して、分かったこと、分からなかったことを整理した上で取り組むことができた。分からなかったところに重点を置いて授業を行うことができた。
- ◎題意を概ね理解した上で学習を行うことができたため、本時の内容について図や式等の多様な方法で表現する時間を確保することができた。
- ◎操作的表現、映像的表現、記号的表現などを相互に関連付けながら説明を行う時間を確保したことで、児童の実態に合わせた活動を行うことができた。
- ◎「授業の内容は分かりますか」というアンケート項目では、全ての児童が、「だいたい当てはまる」「当てはまる」と肯定的に回答していた。
- 授業の内容について、アンケート調査では分かるかと答えている児童が多数いたが、実際のテストの結果と関連しているのかが不明であった。
- 算数チャレンジに関しては、取り組み方の程度に個人差が大きいことがある。また、教師が全ての児童の取り組み方や理解度を把握することが難しく、通常の授業と変わらない授業になってしまうことがあった。
- 習熟の時間を多くとりたかったが、教科書の問題をこなすだけで時間が終わってしまうことが多かった。上位の児童には、計算ドリルやミニ先生以外にも様々な選択肢を与え、学習活動を自分で選択させる経験をさせていく必要があった。

(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

【自分の考えを伝え合う児童の様子】

数学的な表現活動において、操作的表現（実際に操作する活動）、映像的表現（絵や図で表す活動）、記号的表現（式等で表す活動）を授業の中で取り入れた。資料1は  $0.6 \div 3$  の問題で、0.1のカードを分ける操作を行っている様子である。式だけの表現だけでなく、実際に操作活動を取り入れることで、問題場面を正しく捉えた上で理解することができた。（資料1）



【操作的表現，映像的表現，記号的表現をそれぞれ関連付けている様子】

資料1

資料2

【算数チャレンジや復習をした自学ノート】

教科書の内容を書き写す中で、自分が大事だと思ったところを強調したり、実際に問題に取り組むことで、学習に自信をもって臨んだりすることができていた。また、予習だけでなく復習にも積極的に取り組む児童が増えてきた。（資料3・4）

資料3

資料4